

小保・榎津地区歴史的建造物活用エリア基本計画

大川市

目次

目次

1. 取り組みの考え方	... 2	3. 小保・榎津のエリア基本計画	... 15
1. はじめに	... 3	1. 事業推進の体制	... 16
2. 地方の課題	... 4	2. エリア活用イメージ	... 17
3. 課題解決の糸口	... 5	3. 地域資源の活用イメージ	... 18
4. 観光まちづくりの取り組みのポイント①	... 6	4. エリア将来イメージ	... 19
5. 観光まちづくりの取り組みのポイント②	... 7	5. 活用候補物件と拠点整備計画	... 20
6. 観光まちづくりの取り組みのポイント③	... 8	6. 旧緒方家住宅活用イメージ	... 21
2. エリア基本構想	... 9	7. N邸活用イメージ	... 22
1. 小保・榎津地区の課題	... 10	8. E邸活用イメージ	... 23
2. 小保・榎津地区の可能性	... 11	9. S邸活用イメージ	... 24
3. 観光まちづくりビジョンの考え方	... 12	10. U邸活用イメージ	... 25
4. 観光まちづくりビジョン	... 13		
5. 観光まちづくりの方向性	... 14		

1. 取り組みの考え方

1-1. はじめに

自分たちの住むまちとどう向き合っていくか

本市の小保・榎津地区は、旧柳河藩と旧久留米藩の藩境であったまちであり、そのまちなみは、国指定重要文化財「旧吉原家住宅」を始めとした多くの歴史的建造物等を有し、地域住民主体で組織された特定非営利活動法人「小保・榎津藩境のまち保存会」によって、その歴史的風致を維持する取り組みが行われてきました。

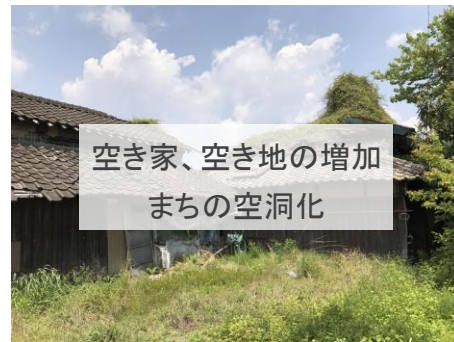
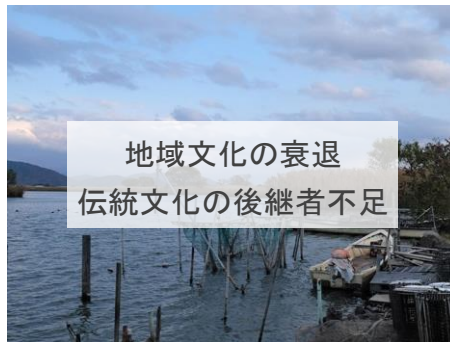
国の総人口が継続的に減少する社会に突入した今日、小保・榎津地区においても、地域労働力の低下、伝統文化の後継者不足、空き家の増加など、多くの課題が顕在化し、コロナ禍を経て、どのように地域を残し次世代へ引き継いでいくのか、選択を迫られています。

- ・ 地域に残る歴史的なまちなみをどのように守っていくか？
- ・ 地域の生業をどのように次世代に継いでいくか？
- ・ 地域のアイデンティティをどのように活かしていくか？

地域住民の想いを基に、地域資源の活用と工夫で、地域を次世代へどう継承できるか、考えていきましょう。

1-2. 地方の課題

さまざまな地域課題



これらの課題への対策として、地域の魅力に光を当て、それらを地域外に発信することで、地域と地域外とを繋ぐ「観光」の取り組みと、地域住民とビジョンを共有し、地域一体となって課題解決を図る「まちづくり」の取り組み、これら2つの特性を併せ持った「観光まちづくり」の取り組みが、地域活性化・地方創生に繋がるものとして、近年注目を浴びています。

1-3. 課題解決の糸口

「観光まちづくり」の取り組み

観光まちづくりにおける「ヒト・モノ・カネ」は、「ヒト」=地域住民、地域の事業者など、「モノ」=地域の歴史文化、それらが生み出した暮らしや景観など、「カネ」=地域にお金が落ちる仕組み、地域外部からの収益になります。

観光まちづくりは、こうした地域の資源を見出し、育て高めることで、地域を未来に引き継いでいく取り組みです。

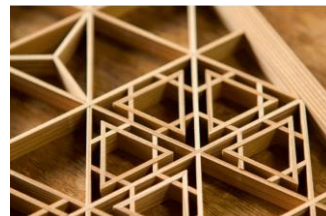
地域内に向けた取り組み

- ・地域性を考慮した事業計画
- ・暮らしや生活に重きを置いた事業
- ・地域の伝統や文化に配慮する開発
- ・自分たちの暮らしを豊かにする取り組み
- ・地域課題の解決に向けた働きかけ
- ・地域雇用や生業の創出

地域外に向けた取り組み

- ・地域の魅力の洗い出し
- ・歴史文化や景観など地域資源の活用
- ・地域継承を視野に入れた持続可能な事業の創出
- ・移住や関係人口の増加
- ・民間事業者の参入等の増加
- ・取り組みを広く伝える、地域外への情報発信

【地域資源の活用】



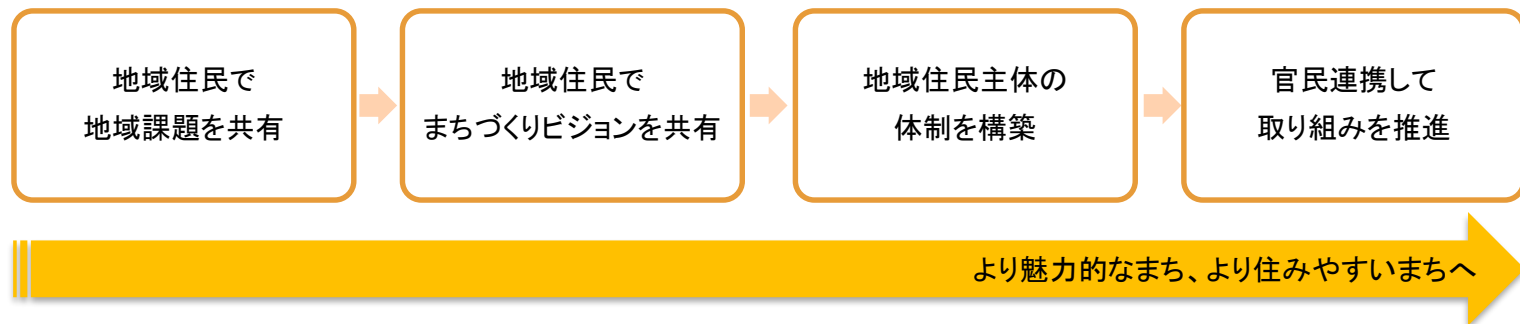
歴史的な地域資源を多く有する地域においては、これらを組み上げる、「歴史的資源を活用した観光まちづくり」が実効性のある取り組みとなります。

1-4. 観光まちづくりの取り組みのポイント①

地域一体となった取り組み

地域の魅力を高めるためには、地域が一体となって取り組むことが重要であり、そのためには、地域で暮らす住民が主役となり、地域住民を主体とした体制づくりが欠かせません。

また、その取り組みを持続可能なものとするため、キーパーソンとなる地域プレイヤーを発掘・育成することが重要になります。



【他地域の事例】地域まちづくり会社(地域に根差し、まちづくりビジョンを基に事業に取り組む企業体)を設立



福岡県うきは市
tsumugiの取り組み



島根県出雲市
つぎと出雲の取り組み



熊本県甲佐町
パレットの取り組み



鹿児島県出水市
いづるの取り組み

1-5. 観光まちづくりの取り組みのポイント②

「地域資源の活用」の取り組み

地域の自然や歴史文化など地域内での「当たり前」は、地域外からみて価値のある可能性が秘められており、それらを魅力あるものへと磨き上げ、活用する視点が重要です。

また、その取り組みを持続可能なものとするため、事業性を考慮することも重要となります。



地域のポテンシャル



その土地の自然



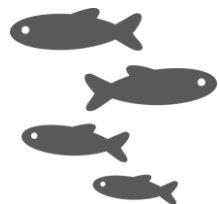
その土地の歴史



建物やまちなみ・古民家



地域の場



自然のいきもの



地域の食文化



地域の日常・暮らし



地域の生業



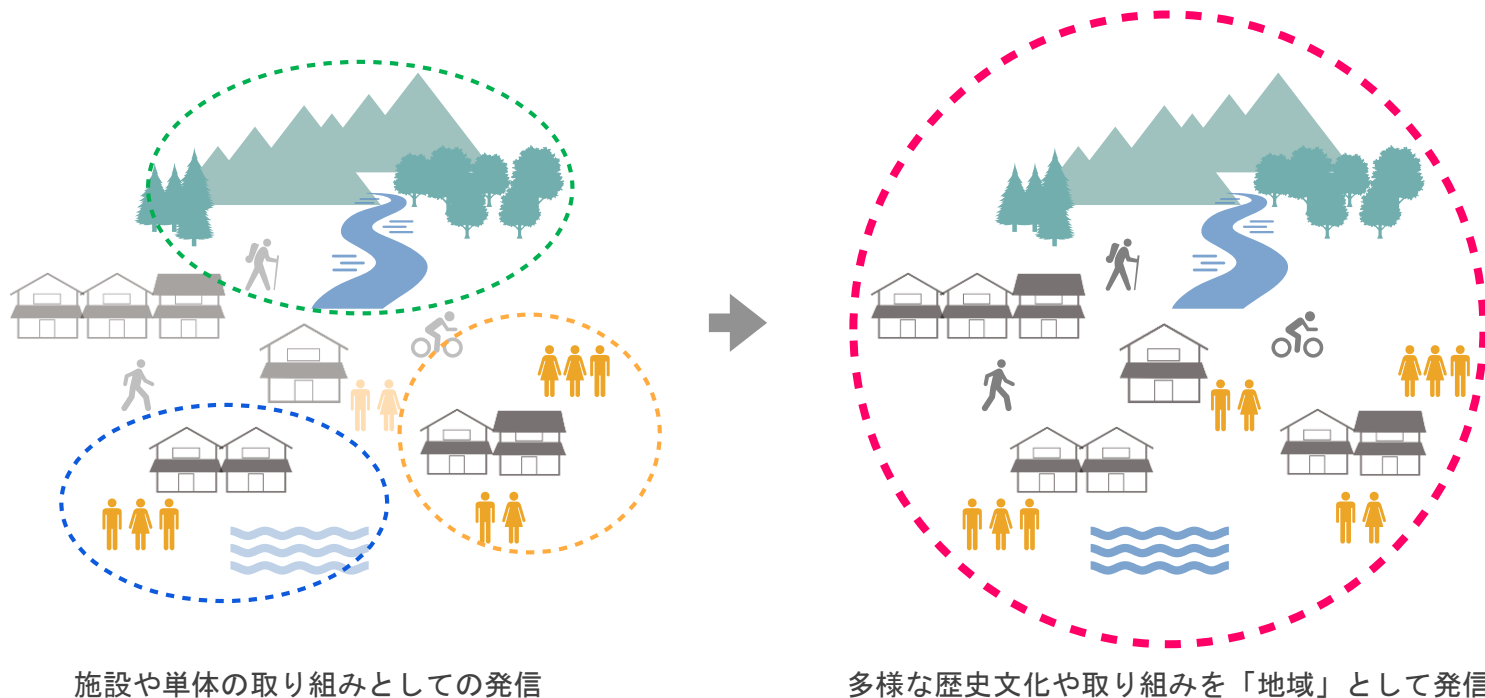
地域の文化・伝統

魅力的なものをゼロから生み出すことは、資金、活力、人材など様々な面でハードルが高いことから、既に地域に存在するものを有効活用する視点が必要になります。

1-6. 観光まちづくりの取り組みのポイント③

発信力の大きい「面的な展開」や「分散型滞在」の取り組み

洗い出し、磨き上げた地域資源を、多様な取り組みとして地域内に面的に展開し、魅力のある「地域」として発信することが重要です。取り組みの広がりが、人材の流入等を促し、更なる地域の活性化に繋がります。



分散型滞在の施設として「分散型ホテル」が全国的に広がっています。地域に点在する空き家等を一棟貸しの客室等に改修することで、まちなみの保存を図りながら、滞在者にまちなみの散策を促し、地域全体の活性化に繋げる取り組みです。

2. エリア基本構想

2-1. 小保・榎津地区の観光まちづくりにおける課題

- ・ 小保・榎津地区における観光まちづくりの課題点を把握し、今後どのように観光まちづくりを行っていくか検討します。

①地域内で共有すべき 観光まちづくりビジョンが未定

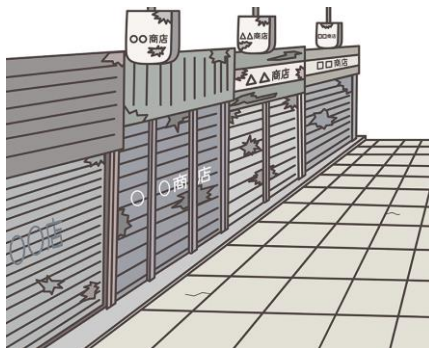


地域として観光まちづくりを実施するに当たって、どのようなまちを目指すか共通の目標を定められていない。

そのため、観光まちづくりのビジョンを作成・地域で共有し、さらに地域プレイヤーと協働で進める体制をつくる必要がある。

まちづくり会社を設立し、観光まちづくりを主導するプレイヤーの発掘と育成を図りながら進める必要がある。

②価値ある地域資源を 活用できていない



木工発祥の地でありながらも、木工業を営む店舗・工場が減り、空き家が増加、木工発祥の地としての面影が薄れている。

残っている遊休資産、つまり地域の資源である建物を活用することを切り口に観光まちづくりを実施する。

歴史的建物の維持については、まだ保存指向の考えが根強い地域も多いため、地域の理解をしっかりと得ながら進めていく必要がある。

③観光地として取り組む 意識が高まっていない



これまで観光地としての取り組みを行ってきていないために、外からの観光客を意識した受け入れ体制が整っていない。

観光まちづくり体制確立・拠点整備の上、メディアやSNSなどを活用して広く発信するなど、小保・榎津エリアの観光地としての意識を高めていく必要がある。

一方で、観光公害化しないよう注意深く進めることも重要である。

2-2. 小保・榎津地区の観光まちづくりにおける可能性

- ・ 小保・榎津地区の要素を分析し、地域の強みと弱み(課題)の洗い出しと整理を行った結果、直面している課題は多いものの、歴史に根ざした強みや秘められた魅力も多く見受けられます。
- ・ エリア分析の結果から、今後のまちづくりの可能性を見出し、観光まちづくりビジョンに反映します。

地域の要素

- ・ 中世を起源としたまちなみが残っており、国指定重要文化財や県指定文化財など歴史的建造物が多く残る地域
- ・ 筑後川の河口流域に位置し、舟運の拠点として多くの人や物が集まり繁栄した地域
- ・ 全国的に珍しく、まちなかに藩境(旧久留米藩と旧柳河藩の境界)がある
- ・ もともとは船大工が多かったところから生まれ発展した、大川木工発祥の地

弱み(課題)

- ・ 地域課題や目指すべき方向性を地域内で共有できていない。
- ・ 中世から続くまちなみが地域資源でもあるが、空き家や新築の建物が増加し、まちなみが崩れつつある。
- ・ 観光地として取り組む意識が高まっておらず、観光客を受け入れる環境整備や、情報発信ができていない。

強み

- ・ 中世を起源とし、藩境のまちとして残ってきた歴史
- ・ 中世から守られてきた街路・水路・地割が織りなすまちなみ
- ・ まちなみの中に古くから残る多くの歴史的な建造物
- ・ 大川市の基幹産業として続いている木工業
- ・ 地域のまちなみを守りたいと集まる人

可能性

- ・ 小保・榎津地区で木工業を営む工場数は減少しつつも、現在でも地区内で活躍する職人が残っている。また大川の基幹産業として今なお木工業は残っているため、現在まちなみで暮らす職人との協力や、若手職人の養成・移住の促進などによって、繁栄していたころのまちなみを復元できる可能性が残っている。
- ・ 現在空き家になっている建物でも歴史的な価値のある建物が多いので、改修し利活用を促進することで、まちなみを地域資源として活用していくことができる。
- ・ 中世から続くまちなみを基に、まちのあり方を考え、議論し続けられる地域の基盤がある。

2-3. 観光まちづくりビジョンの考え方

- ・ 地域住民を対象としたワークショップを開催し、住民から集めた意見をもとに観光まちづくりビジョンをまとめます。
- ・ エリアの【1】「好きなところ」や「自慢したいところ」、【2】「なってほしくないこと」、【3】将来見てみたい「未来の景色」の3つのトピックに対して、下記のような意見が出ました。

【1】好き・自慢したいところ

- ・ 今でも生活の場として現代に引き継がれている、歴史や物語が詰まった建築物やまちなみ
- ・ 船大工から磨き上げられてきた木工技術
- ・ 木工やお酢など、この地域で生き続ける「人の営み」

【2】なってほしくないこと

- ・ 歴史ある建物やまちなみが壊され、空き家が増えてしまうこと
- ・ 人口減少や高齢化により、地域の活気が失われてしまうこと
- ・ これまで続けてきた神事や祭事の担い手がいなくなってしまうこと

【3】未来の景色

- ・ 昔から続いてきた歴史的な建物やまちなみ、人の営みを将来に継がれていく
- ・ 若い世代や外から来た人にも、まちのストーリーが共有される
- ・ この先もエリア内で職人による技が見られるように続いていく
- ・ 地域に外から人が訪れ、店舗や工房などが並び、賑わいが生まれる

2-4. 観光まちづくりビジョン

- ・ 地域一体となって観光まちづくりを推進するため、地域で観光まちづくりビジョンを共有し、ビジョンを軸に今後観光まちづくりの取り組みを推進していきます。

つくるを継ぐ

船大工の歴史から始まる大川木工発祥の地 小保・榎津

中世の面影が残るまちなみや木工技術は、
二つの異なる藩の歴史を経てもなお、この地域に息づいています。
先人たちが積み重ねてきたまちの歴史や受け継がれるまちへの想いを、
それらに共感し外から集まる人々と地域住民が共に協力し賑わいを創出し、
次世代に継承していきます。

2-5. 観光まちづくりの方向性

- ・「歴史的資源を活用した観光まちづくり」の施策にならってまちづくりに取り組みます。
- ・歴史的に読み解ける小保・榎津の魅力や強みを再確認し、新しい小保・榎津の魅力を創出することで次世代に継承します。

【小保・榎津の歴史的背景から読み取れる強み】

造船や家具など木工で栄えた

多くの人々の往来・滞在や様々な生業があった

宿場まちと船大工のまち、隣接する二つの藩で異なる文化が栄えた

筑後川・有明海や江湖や水路など地の利を活かした水運で栄えた



【これからの小保・榎津が目指すこと】

大川木工発祥の地としてのアイデンティティを活かすまちづくり

人が行き交い、賑わうまちづくり

互いの文化を尊重するまちづくり

水運の歴史を感じさせるまちづくり

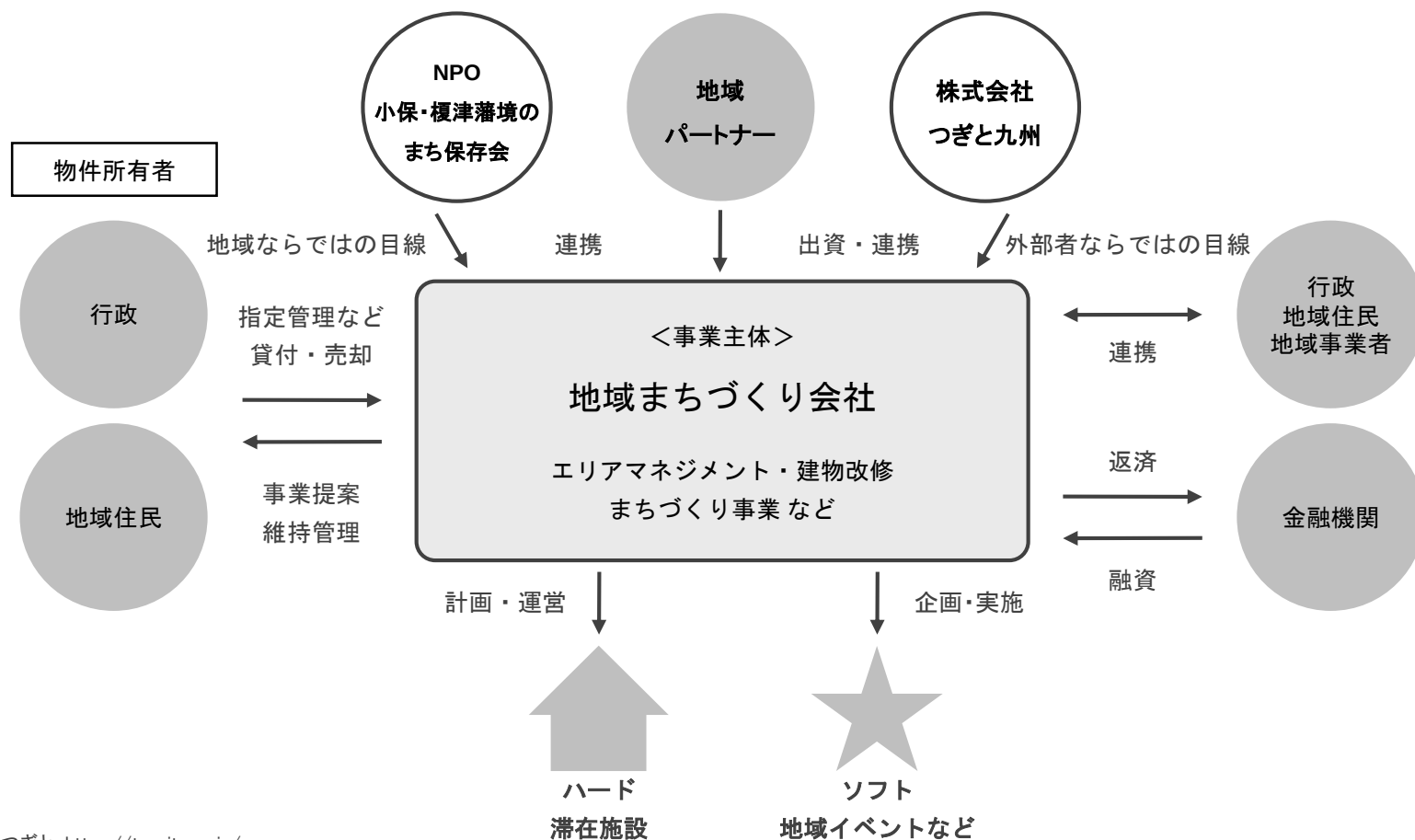


歴史を活かし、未来に繋げるまちづくり

3. 小保・榎津のエリア基本計画

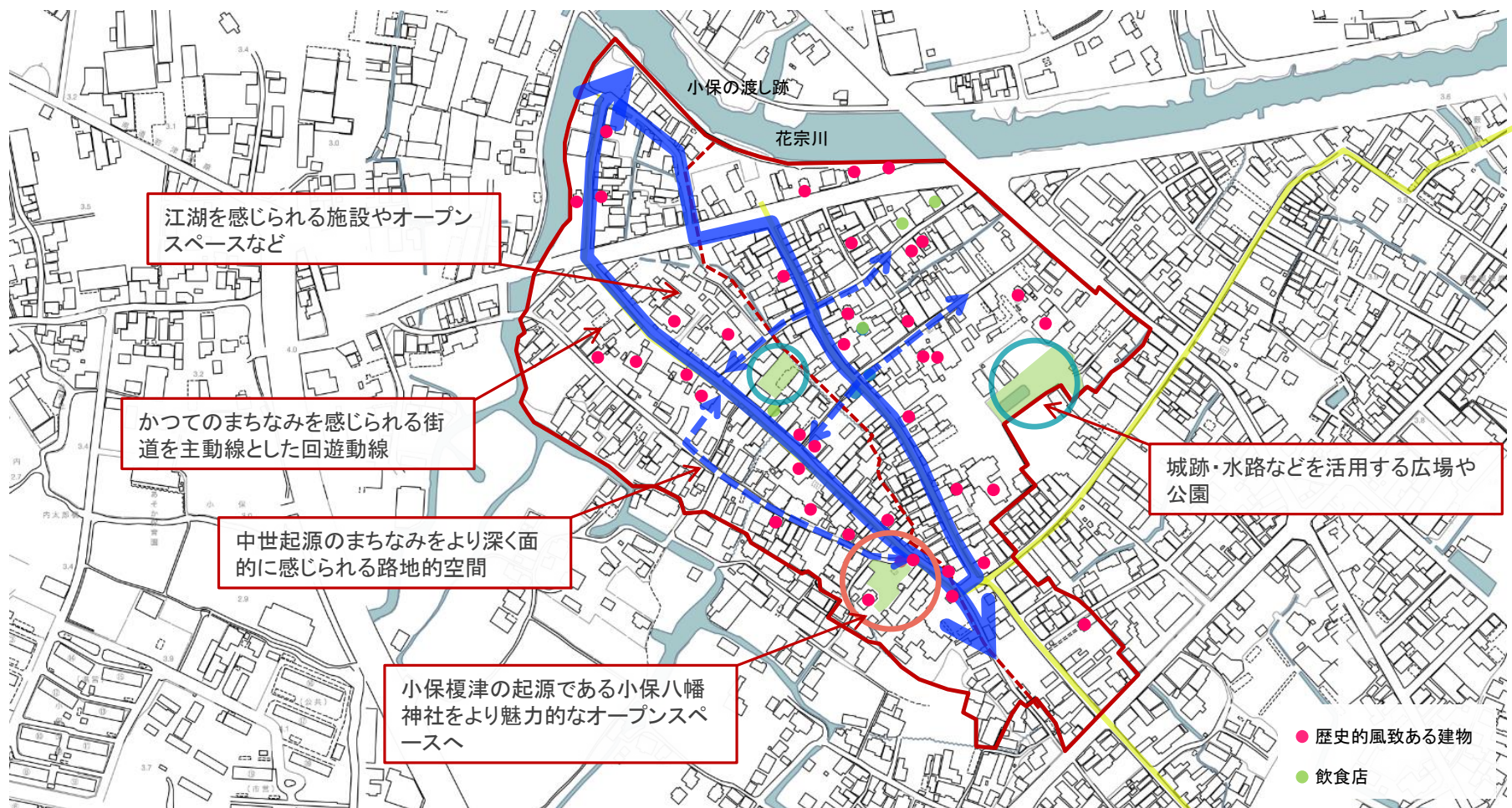
3-1. 事業推進の体制

- ・ 事業主体として「地域まちづくり会社」を設立し、設立した地域まちづくり会社が、エリア全体をマネジメントしながら、「歴史的資源を活用した観光まちづくり」の取り組みを推進します。
- ・ 地域の空き家を滞在施設に改修する等の環境整備は、地域まちづくり会社が民間事業体として事業を行っていきます。



3-2. エリア活用イメージ

- ・ 滞在施設を分散配置することで、既存の主動線を活かした地区内の周遊を促します。
- ・ 地域資源の一つである分散している古民家を主軸に地域全体を面的に活用することにより、まちなみ全体の魅力を高め、地域の価値向上を図ります。



3-3. 地域資源の活用イメージ

- ・ 歴史的風致を残し、まちなみを形成する古民家などを滞在施設として活用します。
- ・ 小保・榎津のまちなみを残しながら、現在活用されていない建物や空き家などを改修し、これまでになかった機能を追加することで、新しい交流を生む施設として整備し、地域の活性化を図ります。

まちの総合案内所・カフェ

活用イメージ①

- ・ まちの特徴となる建物を活用し、地域のシンボルとなるように施設整備を行う。
- ・ 訪問者にとってはまちの総合案内やカフェでくつろぐ建物となる。



宿泊施設＝泊まれるショールーム

活用イメージ②

- ・ 小規模で風情ある家屋を改修し、一棟貸しの宿泊棟・客室として活用する。
- ・ 客室内装に用いる建具や家具は、大川の製品を使用し、まちなかのショールームとしても展開する。



工房・アトリエ・木工体験所など

活用イメージ③

- ・ もともと道路に面して工場として使われていた建物を活用し、職人の工房やアトリエとして活用する。
- ・ 大川木工発祥の地であることを感じられる木工体験が可能な場所をつくる。



住居・店舗・オフィスなど

活用イメージ④

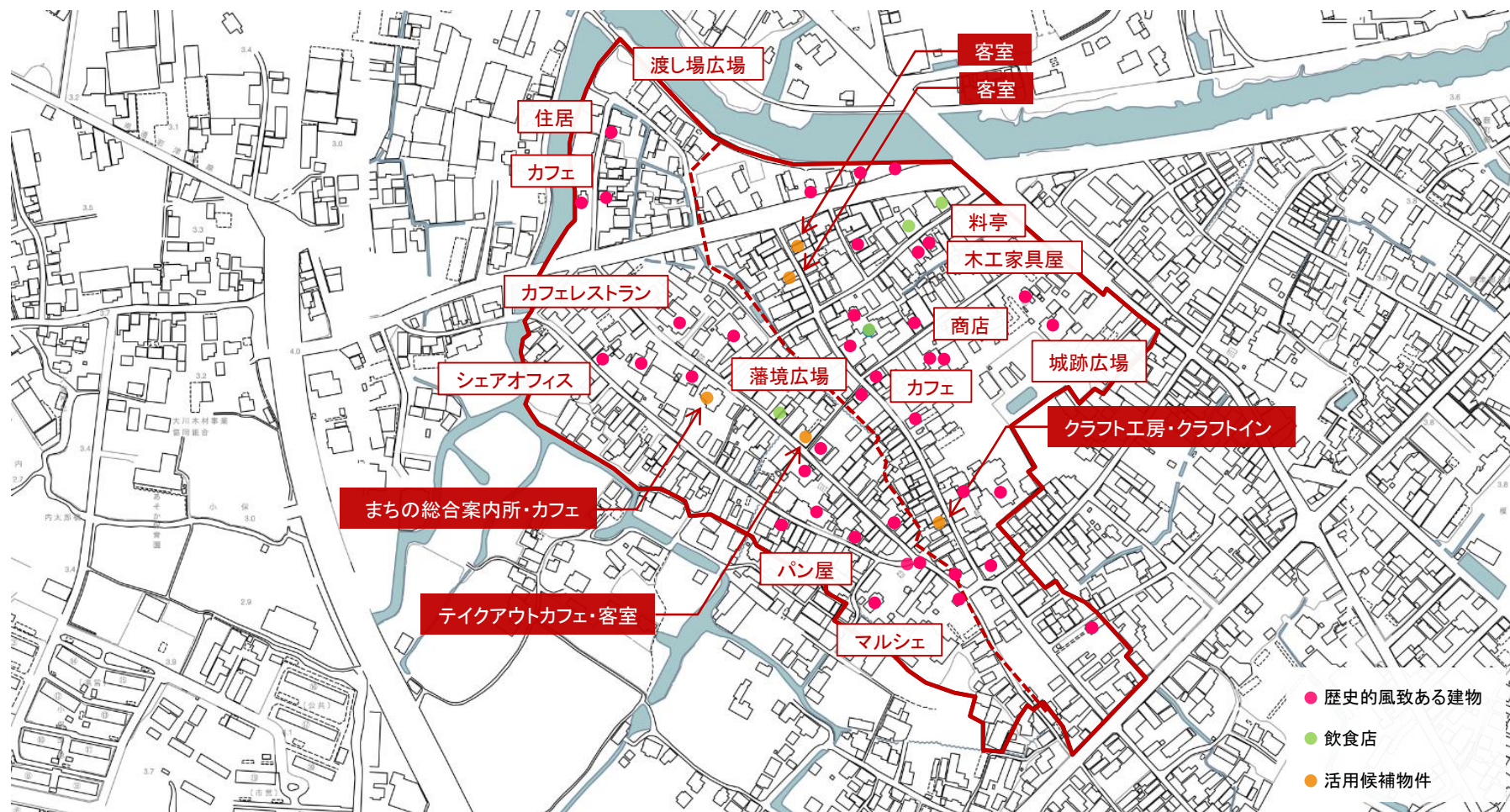
- ・ まちなみへの寄与を原則としながら、現代の暮らしに合ったかたちで改修し、住居として活用する。
- ・ 古民家などを改修し、新しい店舗（飲食店、物販店、店舗、オフィスほか）などに活用する。
- ・ 古民家に限らず、地域に根付いている風情ある建物とすることもできる。



3-4. エリア将来イメージ

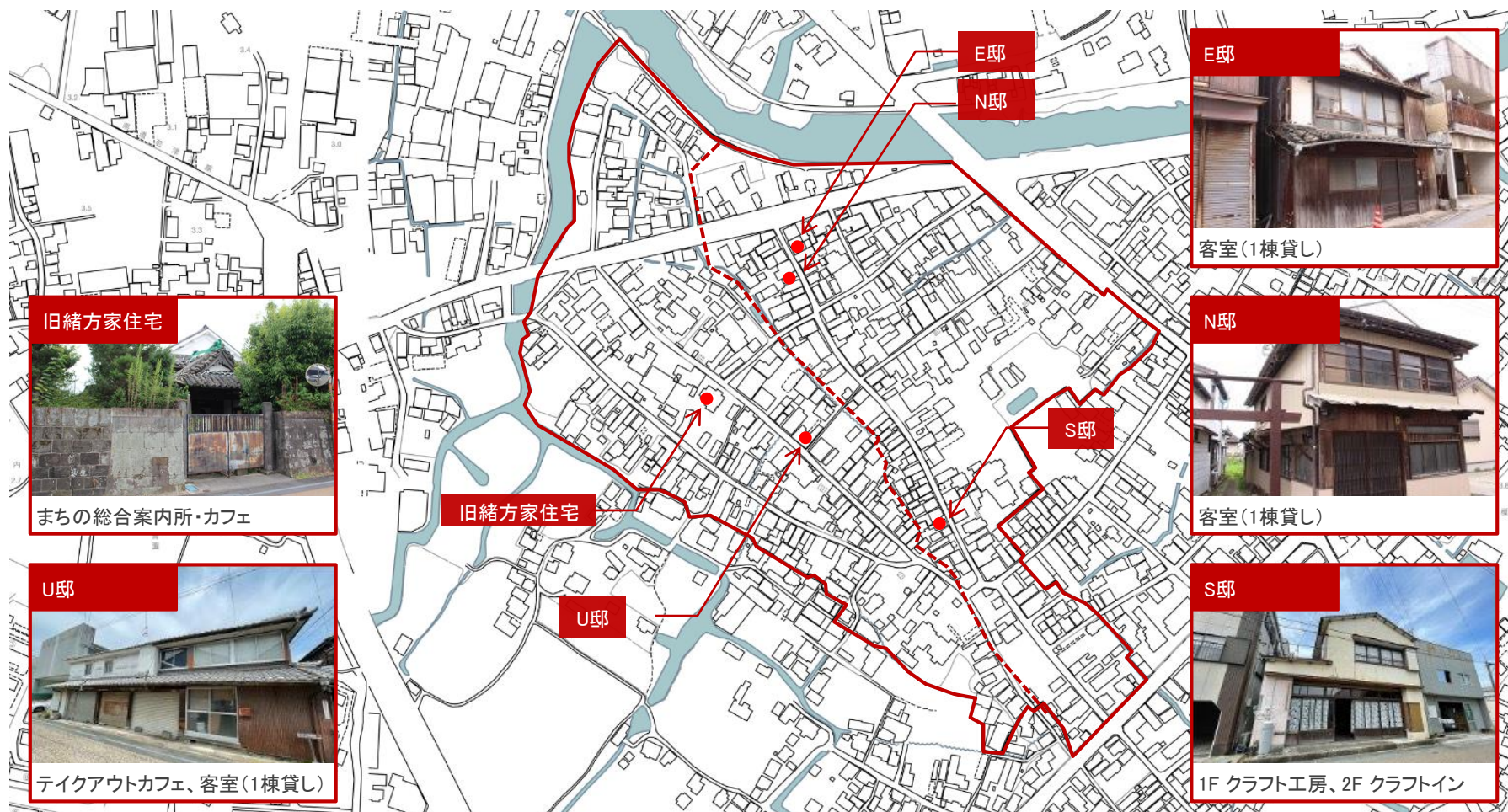
- ・ 地域資源である空き家等を改修して滞在施設として整備し、それらに民間事業者や移住者を誘致することで、エリアの活性化に繋がります。

※各滞在施設の用途については、観光まちづくりの進捗や民間事業者の参入意向に合わせて、随時調整していきます。



3-5. 活用候補物件と拠点整備計画

- ・ 以下5棟のうち旧緒方家住宅以外について、地域まちづくり会社が事業主体となって、順次整備する計画としています。
- ・ 地域内にある県指定文化財「旧緒方家住宅」について、観光まちづくり拠点施設として改修整備する事業を、大川市主体で進めています。



3-6. 旧緒方家住宅活用イメージ

まちの総合案内所・カフェとして人々を出迎える文化財

- ・ 福岡県内でも数少ない武家屋敷として、往時の武家・医家の生活を体感できる空間
- ・ 大川市のことや小保・榎津のことについて情報発信する案内所
- ・ 地域内外から人が集まる、くつろぎのスペース



3-7. N邸活用イメージ

大川木工に浸る滞在

- ・ 地域内の空き家を活用した、分散型の宿泊施設の客室として整備
- ・ 大川の職人により制作された家具や建具で設えた、大川の匠の技が体感できる泊まれるショールーム



3-8. E邸活用イメージ

大川木工の技術に触れる空間

- ・ 1階は大川で木工産業に関わる企業や作家が、展示会・イベントを開催できる空間として整備
- ・ イベントが開催されていないときには、泊まれるショールームとして宿泊できるように整備する



3-9. S邸活用イメージ

職人から学ぶクラフト工房

- ・ 1階の前面は職人が作業を行うクラフト工房兼、一般観光客が体験ができるスペースとして開放
- ・ 1階奥側と2階は、クラフトインもしくはゲストハウスとして利用できるよう、居住空間を整備



3-10. U邸活用イメージ

地元住民の集まる場と地域住民に触れる滞在

- ・ 道路に面する部分は、テイクアウトカフェなどの店舗として活用、地元の人の情報交換の場としても利用してもらう
- ・ 建物裏側の1階、建物2階は、地域内の空き家を活用した分散型の宿泊施設として整備

